

株式会社 淀川製鋼所

淀川製鋼グループ 中期経営計画2025

2023.4.1 -
2025.3.31

YODOKO

I 中期経営計画2022の振り返り

II 中期経営計画2025

I

中期経営計画2022の振り返り

■ 中期経営目標に対する結果

目標 : 2022年度 連結経常利益90億円以上

結果 : 2022年度 連結経常利益176億円

ウィズコロナの進展により経済活動が回復するなか、鉄鋼市況の動向にあわせて機動的に販売価格の改定に努め、目標を大きく上回る業績を達成

(ご参考) 連結経常利益実績

2020年度	2021年度	2022年度
97億円	179億円	176億円

■ 主要施策に対する成果

➤ A 機動力を活かした収益構造の強靱化

- ヨドローブ代理店とライセンス契約を締結・拡大
- 建材、エクステリアの生産・販売体制の再構築
- 高機能塗装鋼板の発売
- ヨド物置エスモのモデルチェンジ
(福井ヨドコウへの生産移管)

➤ B 新しい分野への挑戦

- 他社との協働による新規事業創出の検討
- コラボ物置発売による新たな顧客層の開拓
- 新デザインブランド「YODOKO+」の立上げ

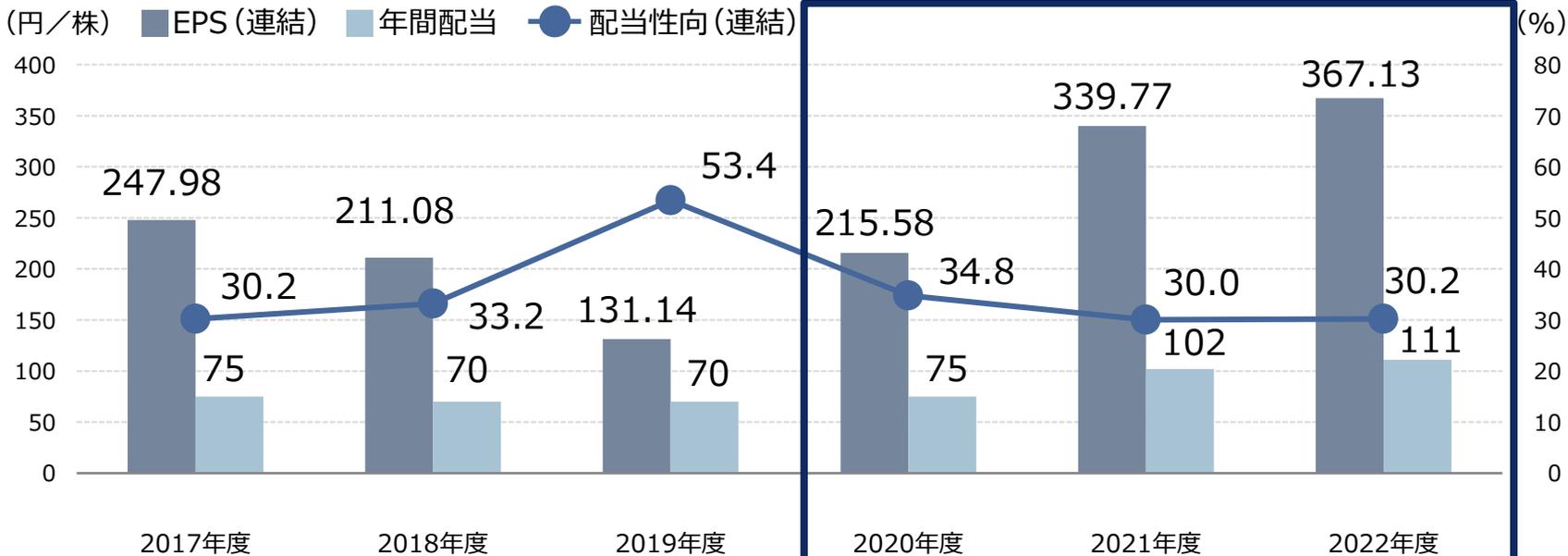
➤ C 持続可能な経営基盤の構築

- 株主還元として安定配当、増配
- ガバナンス機能の充実のため任意の「指名・報酬委員会」を設置
- コンプライアンス強化としてリスクマネジメントを導入
- サステナビリティの取り組み推進に向け「サステナビリティ推進室」を設置
- DX推進の一環としてIT関連企業を買収

■ 株主還元

≫ 連結配当性向 年間 30%~50% 目途

≫ 1株当たり 年間 50円以上



■ 設備投資

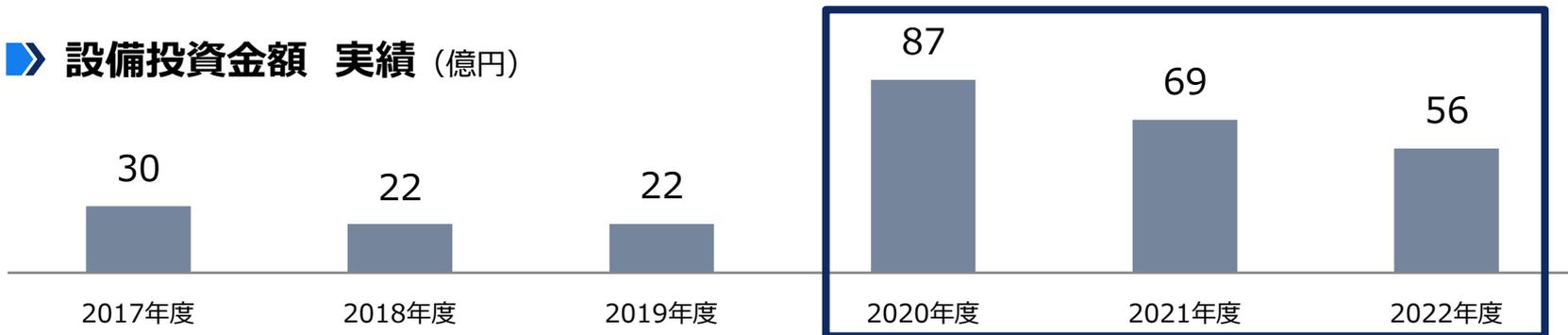
連結設備投資計画（2020～2022年度の3年間）

150～200億円

連結総投資額（2020～2022年度の3年間）

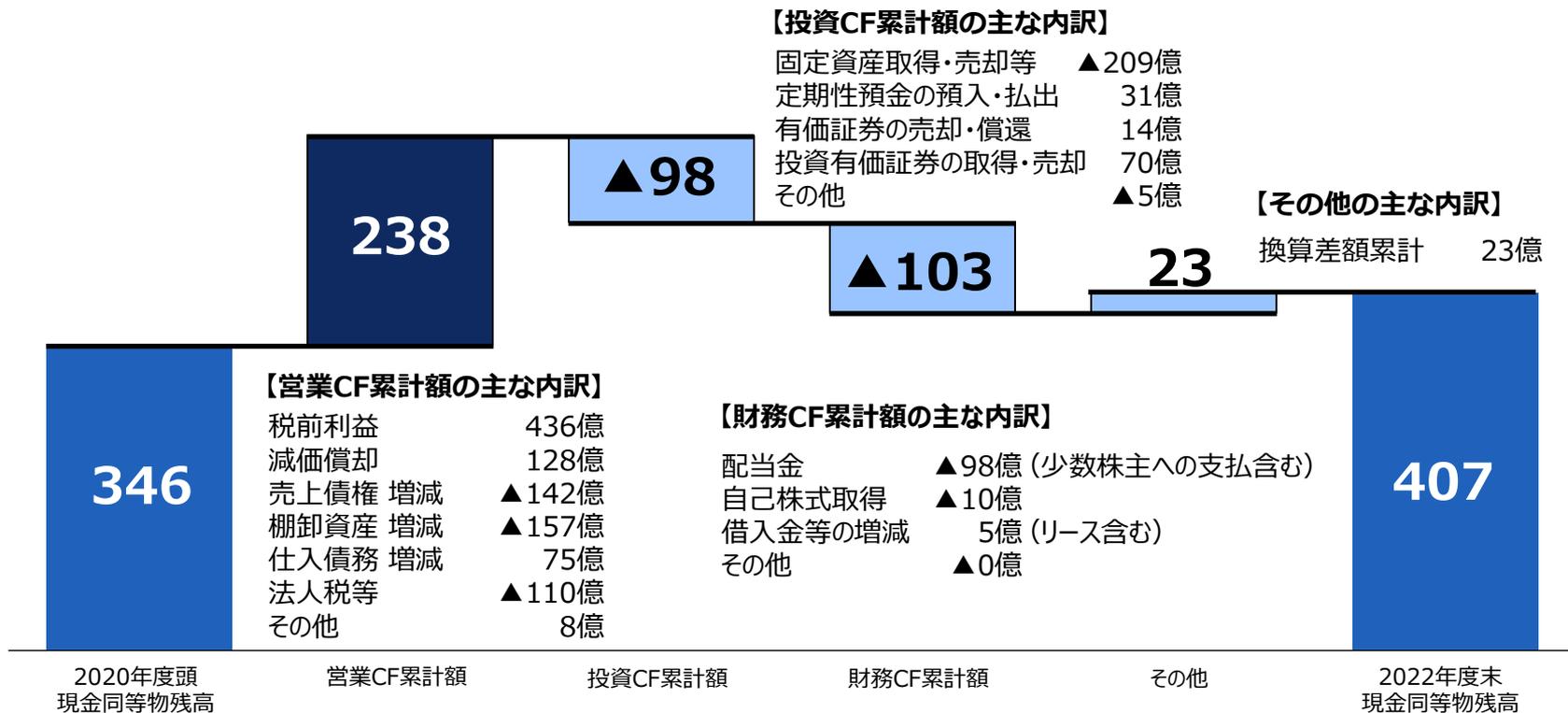
213億円

▶ 設備投資金額 実績（億円）



福井ヨドコウ 工場・設備新設他

■ 連結キャッシュ・フロー概要 <2020年度~2022年度> (単位：億円)



II

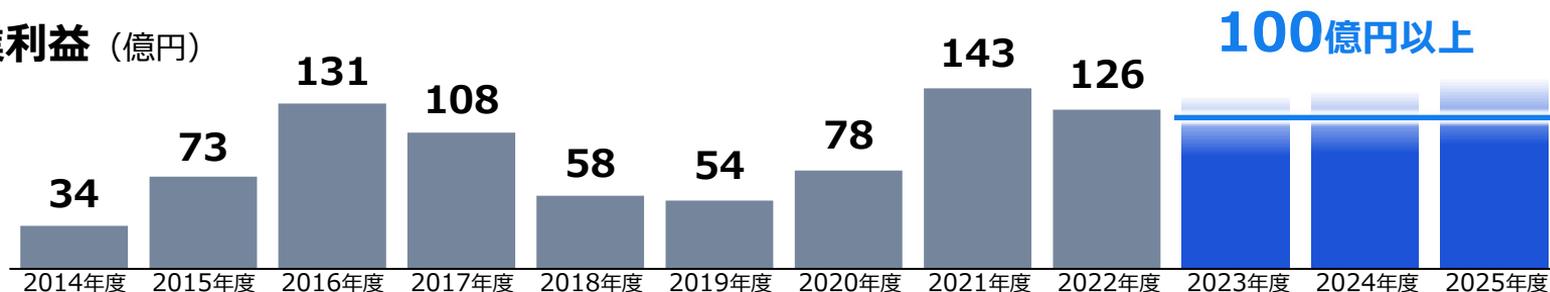
中期経営計画2025

(2023年度～2025年度)

■ 中期経営目標

» 連結営業利益 100億円以上の安定計上
(中期経営計画2025期間)

■ 営業利益 (億円)



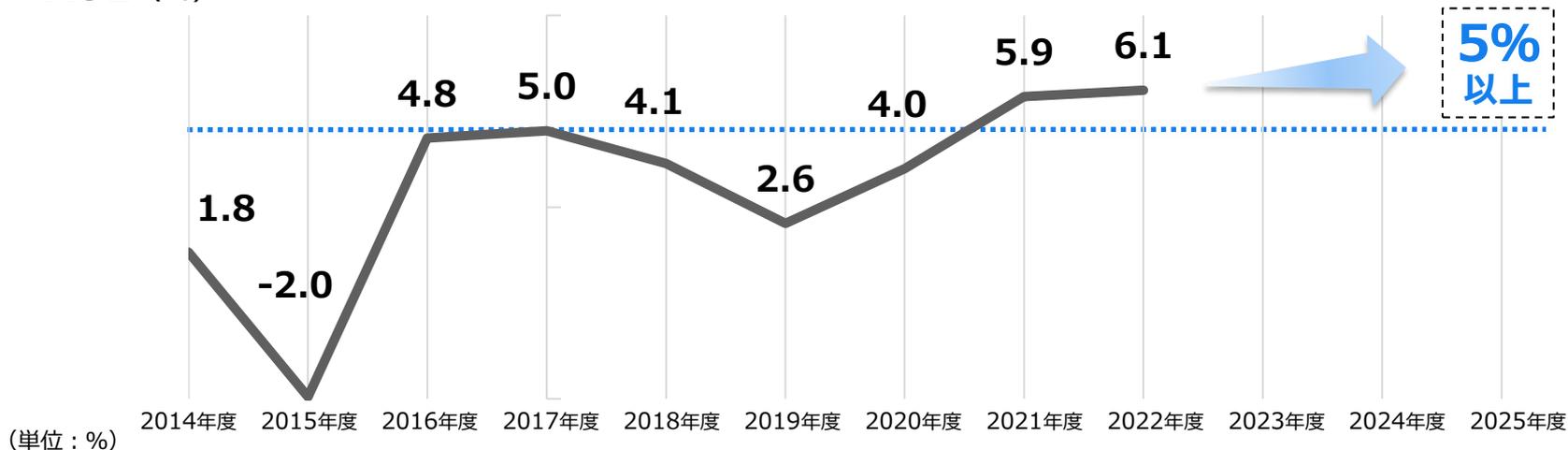
(単位：億円)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	1,758	1,592	1,542	1,738	1,674	1,540	1,503	2,016	2,203
営業利益	34	73	131	108	58	54	78	143	126
経常利益	71	84	137	122	98	74	97	179	176

■ 中期経営目標

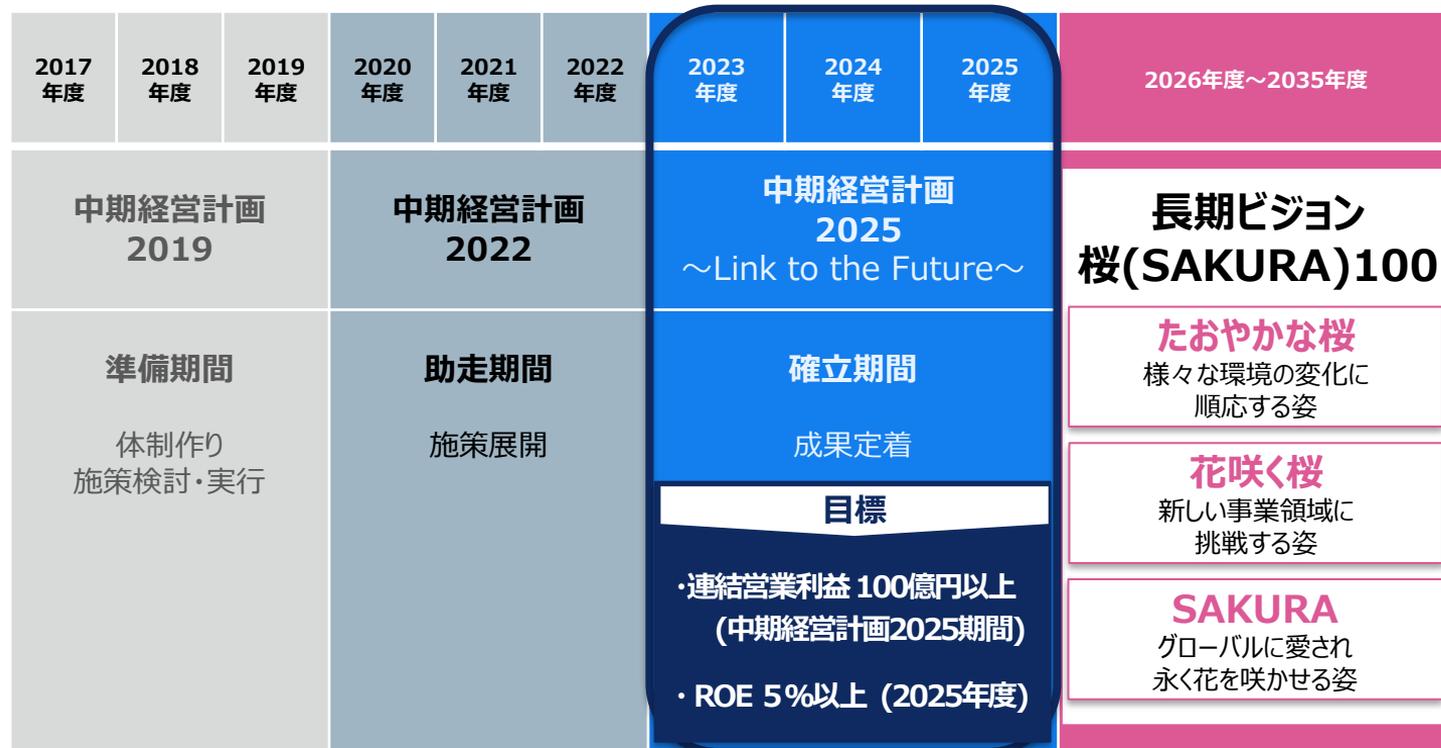
» ROE（自己資本当期純利益率）：2025年度 5%以上

■ ROE (%)



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ROE	1.8	-2.0	4.8	5.0	4.1	2.6	4.0	5.9	6.1

■ 本中期経営計画期間の位置付け



100年企業への発展

■ 基本戦略

「収益構造の更なる強靱化」「新しい分野への挑戦」「持続可能な経営基盤の構築」を基軸とする、下記 6 項目を基本戦略といたします。

<p>➤ A 収益構造の更なる強靱化</p> <ul style="list-style-type: none">■ 成長のための既存ビジネスの拡大■ ものづくり力の底上げ	<p>➤ B 新しい分野への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none">■ 既存事業を基盤とした新分野の開拓
<p>➤ C 持続可能な経営基盤の構築</p> <ul style="list-style-type: none">■ 将来を見据えた積極的投資と資本効率向上■ 次世代を担う人材の育成と組織力強化■ 全てのステークホルダーとの共生	

■ 事業戦略 - 鋼板関連事業

鋼板事業

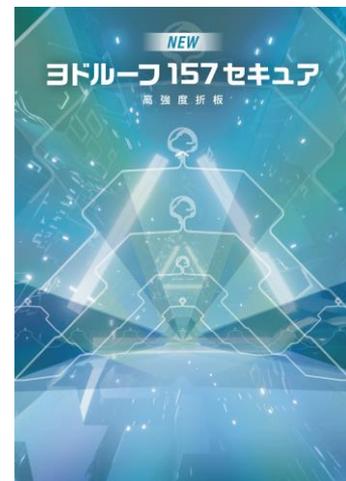
- 新用途の開拓による安定した収益基盤の構築
- 高付加価値商品の拡販、アライアンスも視野に入れた市場獲得
- 自動化・デジタル化による品質管理体制の強化
- 計画的な設備更新による生産量の
維持拡大



■ 事業戦略 - 鋼板関連事業

建材事業

- 外装パネル商品の品質・生産性向上、
需要に柔軟に対応できる生産・販売体制の構築
- 金属屋根商品の代理店との協働による
拡販、収益力強化



■ 事業戦略 - 鋼板関連事業

エクステリア事業

- 多様なライフスタイルに合わせた商品ラインナップの拡充
- 異業種との協業による商品の
開発・拡販
- 生産・物流体制の構築完遂



■ 事業戦略 - 鋼板関連事業（海外）

アジアを中心に 表面処理鋼板需要の捕捉

- 保護主義的措置の影響に左右されない販売ネットワークの構築
- SYSCO社を中心に新たな海外市場の開拓
- 各拠点で優位性を有する高付加価値商品の拡販
- ブランド力のさらなる向上

鋼板事業と建材事業の 協働・連携の緊密化

- <中国> YSS社⇔YBMH社
- <台湾> SYSCO社⇔YIL社

■ 事業戦略 - その他

ロール事業

- 新規分野の需要開拓
- 高付加価値ロールの拡販

グレーチング事業

- 道路分野の需要捕捉強化
- 既存分野以外の新規顧客獲得、
新しい流通体制の構築

その他事業

<不動産事業>

- 保有不動産の用途開拓等
資産の有効活用

<エンジニアリング事業>

- 新規販売品目の増加
- 新規顧客の開拓

<新事業>

- 専従組織による
新たな収益源の開拓

■ 資本政策

優先的な 資金使途

- 既存事業における競争力強化
- 新しい事業領域の開拓
- 環境対応、人的資本の充実

株主還元

- 配当金の支払いを重視
年間1株あたり50円以上を維持
連結配当性向年間30%以上

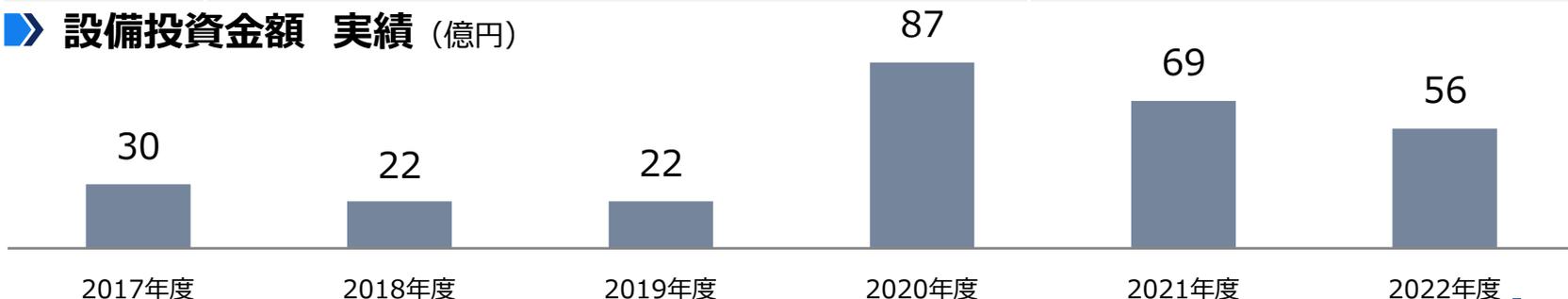
資本効率

- 資本コストを上回る資本効率を実現するため
- 既存事業における投下資本利益率の向上
 - 積極的投資により非事業資産を事業資産へ組み換え

■ 設備投資計画

連結総投資額（2023年度～2025年度の3年間）		200億円～250億円
【内訳】	競争力強化	（75億円～110億円）
	既存事業基盤の維持	（80億円～100億円）
	サステナビリティ関連	（25億円～30億円）
	DX関連	（20億円）

▶ 設備投資金額 実績（億円）



■ ステークホルダーとの共生

▶ 株主・投資家



- 企業価値の向上
- IR施策の充実、情報発信の強化

▶ 従業員



- 組織・人材の活性化に向けた制度設計、教育システムの構築
- ITツール導入やデジタル化推進による省力化・業務効率向上

事業を通じた 価値の提供



▶ 顧客・取引先



- 全社的な品質管理体制の強化
- ブランド力の強化
- 取引先とのパートナーシップ維持向上

▶ 社会・自然環境



- ガバナンス体制のさらなる強化
- サステナビリティ推進
- 全社的なシステム再構築によるIT基盤の強化

■ サステナビリティ推進（CO2排出量削減）

目標

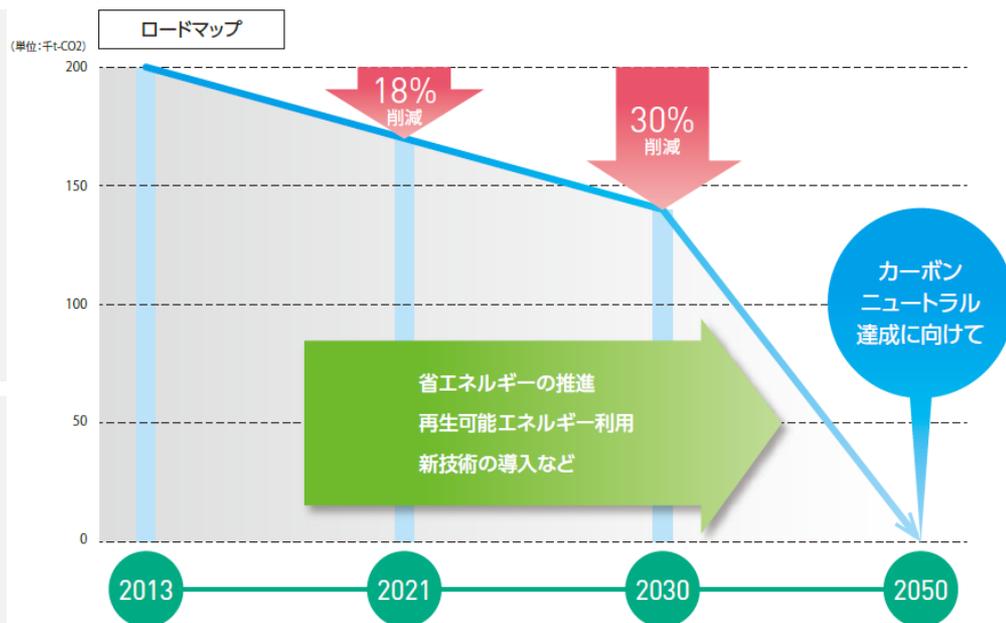
2030年：CO2排出量 2013年度比30%削減

取組項目

- 省エネ・創エネでの
CO2排出原単位の削減
- 再生可能エネルギーの
段階的な導入

ご参考

- 2022年度取り組み
- TCFD提言に沿った情報開示・賛同表明
 - 省エネ・創エネ推進WG 設置
 - 大阪・泉大津工場 再エネ電力一部導入



本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。